

キャリア教育

三つの学習期

町田市小中一貫「キャリア教育」は、「働くことの意味や意義を理解して、社会の一員として積極的に役割を担って生きていくことのできる児童・生徒を育てること」をねらいとしています。

キャリア教育とは、「児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。

*キャリア発達・・・社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

*キャリア・・・人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ね

●第1期●

一様々な人に出会い、交流活動を通して、働く大人の姿に触れる学習期(小学1年生～4年生)一

小学1年生から4年生までの学習期は、好奇心が旺盛な時期です。したがって、働くことの楽しさやうれしさを知ったり、興味・関心を高めたりすることが大切です。地域の働く人々と直接ふれあい、交流する活動や、家庭で自分の役割をもって働くことなどを通して、ほめられたり認められたりする経験を積むことが必要です。

●第2期●

一様々な職業や仕事の内容を知り、働くことの意味や意義を考える学習期(小学5年生～中学1年生)一

小学5年生から中学1年生までの学習期では、積極的な学習活動とともに、幅広い興味・関心をもち、深い理解が可能になる時期です。したがって、働くことの意味や意義を考える学習が大切です。様々な職種やその仕事内容に関する知識を得て、理解を深めるとともに、働く人の工夫や努力、やりがいや生きがいなどに触れることが大切です。

●第3期●

一職場体験での経験を生かして、将来に目を向けて、自分の適性や進路について考える学習期(中学2年生～3年生)一

中学2年生から3年生は、精神的な成長が見られ、自分自身を客観的に振り返ったり、見通しをもって先のことを考えたりすることができる時期です。したがって、自分の適性や進路について考える学習が大切です。自分の成長過程を振り返ったり、自分のよさや適性に気付いたり、将来の自分の生き方や在り方を考えたりする学習が必要です。

その他、
全教育活動を通じて
子どもに経験させたい活動

- ・キャリア・アドバイザーと触れ合う経験
- ・働いて人に感謝される経験
- ・企画・運営する経験
- ・生産や販売する経験
- ・ルールやマナーを体得する経験

小中一貫キャリア教育

キャリア教育に含まれる内容

○ 人や社会とかかわること（人間関係形成・社会形成能力）

社会人、職業人として将来を生きていくために必要な、人や社会とのかかわりに関する項目である。その実現のためには、マナーやあいさつ、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の思いを受けとめることなど、社会的・職業的自立に根ざした、対人的な基本姿勢を学ばせることが大切である。

○ 自分のよさをのばすこと（自己理解・自己管理能力）

意欲的に生きるための、自己肯定感や自己効力感に関する項目である。その実現のためには、自分のよさに目を向けさせ、自分の可能性を信じ、自分の成長を振り返らせ、自分の役割を自覚させ、将来に向けた夢を大切にすることを育てることが重要である。

○ 経験・体験を生かすこと（課題対応能力）

職場体験や職業調べなど体験活動での学びを生かすことに関する項目である。キャリア教育が目指すものは、社会的・職業的自立であり、そのためには、体験や経験を通じて、ものごとに対応する能力の育成を図ることが重要である。

○ 働くことや将来の生活について考えること

（キャリアプランニング能力）

働くことの大切さや勤労の尊さ、将来の生活について理解し、キャリアプランニングをする力の育成に関する項目である。その実現のためには、ボランティア活動、社会奉仕、社会貢献などについても理解を深めさせ、進んで社会のために役立とうとする心情を養わせることが大切である。

家庭との連携

○ 家庭で実践すること

キャリア教育は学校だけで進めるものではなく、当然ながら家庭との連携が必要である。家庭においても、子供が自分の役割を担ったり、将来について話し合ったりすることが、学校で進めるキャリア教育にも大変重要な要素となる。教育課程外ではあるが、各家庭に理解、協力を求め、連携して、子供たちにキャリア教育に関する力を育成していくことを進める必要がある。